



人権教育だより

島根県立大東高等学校

令和6年度

2学期号

今年は「ふてほど」そして「はて？」

早くも12月となり、今年一年を締めくくる時季となりました。この一年を物語る「今年の〇〇」の話題も多いですね。その一つに「流行語大賞」があります。今年の大賞となったのは「ふてほど」。ご存じですか？「不適切にもほどがある」というドラマのタイトルの略称です。このドラマは、ハラスメントやコンプライアンスの意識がまだ薄かった昭和の学校教師が令和の時代にタイムスリップしてしまう、という内容です。この40年近くの間、ずいぶん人権尊重の意識が高まり世の中が変わったと感じます。また、トップ10ではありませんが、「はて？」もノミネートされていました。こちらは、朝ドラ「寅に翼」の主人公寅子が、世間の常識や偏見に疑問を抱き発する口癖が「はて？」。ドラマの時代よりも100年経っている今、「基本的人権の尊重」ということばを理解している今でも、「はて？」と思わされることがたくさんあるように思います。「はて？」と立ち止まり、見直していくことが、誰もが住みやすい世の中にしていくことかもしれません。

2学期人権学習ホームルームを実施しました



1年生 ~ちがいのちがいについて~

1年生は、人権学習 HR で「違いの違い～偏見と差別について考える～」について学びました。身の周りがあるちがいについて、「あってよい違いか、あってはならない違いであるか」を、グループで話し合いました。

今回は、以下の3点について考えました。

- ① 両親は妹には食事の後片付けをするように言いつけるが、兄には何も言わない
- ② Aさんは一人で電車に乗ることができるが、車いすに乗っているBさんは一人で電車に乗ることができない。
- ③ 自分のテストにフリガナはついてないが、外国籍のCさんはテストの漢字にフリガナをつけてもらっている。

～生徒の感想より～  いろいろな考え方があるんだなと思いました。女だから～、男だから～、この人は障がい者だから～、とか偏見や思い込みで傷つく人はたくさんいるんだなと、改めて知ることができたし、その人のために思った行動がその人のためになっていないこともあるんだなと感じました。このようなことを減らすために、ひとりひとりが理解しようとする心や、周りをよく見る気持ち、お互いを認め合うことがとても大切だなと思いました。

 今回の HR を通して、日常にある出来事について多様なものの見方で考えてみて、普段あまり気にしないようなことでもよくよく見てみると「おかしいのかもしれない。」と考えることができました。でも、なかなか文章にするのは難しく直感的には違うと思ってもその理由がなかなかわからないと感じたので日常的に様々なものを多様な視点で見ることが必要だと思いました。



2年生 ～ヤングケアラーってなに？

2年生は、出雲市にある「コネクトほーむ」代表 井上恵理子さんから、ご自身がヤングケアラーだった体験をもとに ヤングケアラーとは何か、どういう問題があるのか、お話を伺いました。ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話など



を日常的に行っている子どものことをヤングケアラーと呼びます。「お手伝い」との違いは、井上さんは「時計、時間を気にしているかどうか」とおっしゃいます。家族の世話をすることは、悪いことではない。けれど、「〇時に～をしなくてはならないから、△時には～をして……」と常に時間を気にしながら生活することは、子どもの成長や学びに影響を与えてしまう、それがヤングケアラーの問題なのです。



お話のあと、「もし自分がヤングケアラーになったらどうする？」「友達がヤングケアラーかも。どうしたらいい？」ということについて、グループワークで考えました。井上さんは、「どんなことでも一人で抱え込まず、周りの人に甘えてください。そばにヤングケアラーの人がいたらもし話を聞けそうだったら聞いてあげて。でも、無理に聞き出そうとしないでね。そして見守ってあげて。」と結ばれました。



3年生 ～結婚差別について考える～

3年生は、毎年この時期の人権学習 HR で「結婚差別」について学びます。18才になれば、本人同士の合意でできるはずの結婚を「生まれ」を理由にして反対すること、これが結婚差別です。同和地区出身というだけで、結婚を反対される不合理さを理解し、部落差別を解消するための正しい知識を身につけ、差別のない社会を作るためどのように行動するかを考えました。

～生徒の感想より～  生まれた土地によって差別が起こっていて、結婚することができなかった人たちがいるということを初めて知った。こうした差別に対して高校生である私達が何を考えて今後何をすべきかしっかりと考える時間になりました。また、今日感じたことを一時的に自分の内に留めるのではなく、これからの生活で部落差別に対する正しい知識をもっと学んで身につけ、自分の知らない内に差別をしてしまったり心ない言葉で誰かを傷つけたりすることがないようにしたいです。

 とても難しい話だと思ったけど、よく考えてみると意外と単純で差別は良くないという内容だった。自分は毎回このような授業をするたびになんで差別するんだらう？誰にメリットがあるんだらうと思っていた。しかし、そういう問題じゃなくて周りに流されたり自分の身を守るために差別が増えていくんだと思った。だから、差別を無くそうじゃなくて差別は意味ないよということを広めるともっと差別が減ると思いました。今回の活動ではいろんな意見があったりして新しい考え方をを見つけることができたので良かったです。

感想の中に、「学校で部落差別についての授業や教育をするなら、ときには保護者も参加可能にしたり、授業参観のときに行ったりするといいいんじゃないかなと思いました。」というものがありません。他にも自分たちだけでなく大人も一緒に、みんなで考えていきたいという趣旨のものも。ご家庭でも一度話題にしてもらえたらと思います。また、



3学期の
人権教育
HR

○1年生:性の多様性について ○2年生:差別の歴史に学ぶ
○3年生:講演会 1月29日(水)9:30～ 源氏螢の会代表 三浦成人 氏

人権週間(12/4~10)に、あいさつ運動をしました!



12月4日(水)~10日(火)の間、生徒会があいさつ運動を行いました。「人権」と「あいさつ」がどう関わるのか、と思う方もあるかもしれませんね。でも、生徒会長が、以下のように呼びかけて始まりました。

「(人権週間では)お互いの個性や違いを尊重しあい、認め合い仲間がいる大切さを改めて考える機会にしていきたいと思います。私たち生徒会はあいさつ運動をはじめました。これもあいさつを交わすことで、笑顔があふれたり、お互いの心をつなげたりする第一歩となると思います。この期間を通して学校全体を明るくしていきたいと思います。」

この言葉どおり、「人権」とか「人権教育」というのは、そんな小難しいことではありません。「おはよう」「こんにちは」の一言が誰かの笑顔につながっていく大切な人権尊重の行動になるのだと思います。

うなんんヒューマンライツフェスタ 2024(11/30~12/10)に展示参加



同じ期間、雲南市では「うなんんヒューマンライツフェスタ」が開かれていました。大東高校は、マルシェリーズでの企画展示に参加しました。テーマは「Well-being な学校づくり」。

そのために豊かな人間関係を作り、何かをやり遂げる

エネルギーを持ち、住んでいるところが好き、と思えるような取り組みをしてきました。

学園祭でのキッチンカーのイベントや山陰フィル演奏会のこと、

また、授業で雲南地域探究を選択している生徒の、探究の成

果も展示しました。

